

暖かな春を感じずる日は、ついウトウトとして、昔あった出来事や近年起こった出来事が、つい今あった事のように夢となって現われ、思わぬ時を楽しむことがあります。檀信徒各位には、お変わりなくお過ごしでいらつしやいませうか。

新しい年を迎えたと思っておりましたら、もう三月の声を聞く頃となり、全く時の経過の早さには驚くばかりです。

「光陰は矢よりも速かなり



人命は露よりもろし」

昔の人が、今の人に語りついできた言葉の中には、本当に真理を突いた、味わい深い言葉があるものだと思います。

上手に悩んで

私のもとには、悩みで苦しみ、傷つき、救いを求めてやって来る方が沢山おられます。私と話したからといって、数学を解くように公式に当てはめればすぐに答えが出

近年、体のきかなくなつた高齢者や健康な人々と歩みが異なる人々を、社会のお荷物だとばかり傷つけたり、安易に殺すといった惨事が相次いだと思つていましたら、血を分けた、あらがう術のない幼いわが子を虐待したり、殺したりする親、自分を慈しんで育ててくれた親をも殺す子まで出てきました。

昔に比べ、残忍な事件が頻繁に起こる現代、心の隙間を埋めてくれるものを求めてもがいている人々を救う手立て、そのような事件が起きないようにする手立ては、なかったのでしょうか。

時代によって人間の価値観は変わる

人間の物事に対する評価、価値観を表わす物差しは、時代や状況によつて、いとも簡単に変わつてしまいます。先の戦争の時は、とにかく戦争に協力することが、ある種の正義のように言われ、多くの尊い命が

るといわけではないのですが、誰かに聞いてもらうことで、自分で心の中の整理ができて、気持ちが落ち着くのだろうと思えます。寺の門を出る時には、晴れ晴れとした顔で、お帰りになることが多いようです。

安心して悩む

迷いからできるだけ早く解放され、悟りの世界へ行こうなどと考えるから、安心からどんどん遠去かるのであり、生きている以上、悩みと無縁でいることは出来ないのなら、上手に悩むつまり、安心して悩めばいいのです。何度かお話ししましたが、大雄山の前山主の余語老師は「上手に悩みなさい」とよく言われました。

大抵、どれ程一生懸命苦しい気持ちになつても、それは思い悩むからであり、自分で苦しみを思いの中で大きくしているのだから、本当の苦しみは所詮知れているというのです。

失われました。しかし敗戦後は、あの時の正義といわれたもの、信じられてきたものは瞬時にしてその評価が逆転しました。

このように、人間の考える物差しほど、あてにならぬものはないのです。

人間の物差し

現実に生きている人間が、全ての物差しを捨ててやることは不可能ですし、上昇思考を否定したり、努力することを意味のないことだとは言いません。が、人間の物差しを取り除き、「あなたは、あなたですよ」とあるがままを受け止め、あるがままを認めてあげたら、誰もが安心して生きていけるのではないのでしょうか。

「花の中で、あなたは何の花が一番美しいと思いますか」という問いが出されました。「百合です」「バラです」「ランの花です」

百人百様、答えるでしょう。でも花達にとつて、人々のえり好みによつ

て答えられた、それらの評価はいつでもいいことなのです。

花達は、そんな事にお構いなしに咲いています。

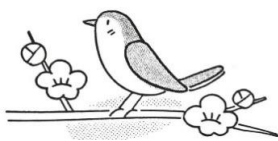
道元禅師の歌に

「春は花 夏ほととぎす 秋は月

冬雪さえて すすしかりけり」

というのがありますが、この歌も、日本の自然への賛美ではなく、「本来の面目」という題目で、「春も夏も、秋も冬も、それぞれに違つたままで、絶対なのだ」という意味であります。

悩む時は悩み、傷付く時は傷付く中にあるとしても、自分を自分として認める安心の世界をつくりたいものです。



お寺近況

○三竹の杉山精一様より、ヒノキのよい木が出たので、お寺で、その機が熟すまで蓄して、本堂改築や客殿建設などに役立てたらどうだろうかという、御親切でありがたいお話しをいただきました。

自宅や葬儀場を使つての葬儀、法事よりも、お寺でそのような設備を備えた客殿や堅牢な本堂があれば、定価格で、又多くの人が遠慮なく、安心して使える場としてどんなにか、喜こんでもらえるだろうと常日頃思っていましたので、杉山様からのお申出は、本当にありがたく思えました。

私が在任中に、一ツでも二ツでも夢がかなつて、皆さんに喜こんでもらえる場が出来ると嬉しいナと思つています。

○三月九日（土）、地区世話人さんの交代引継会がありました。新役員さんは五月十一

一口伝導板

○すいません

この一言が 争いを解き

ありがとう

この一言が 和らぎを与え

おかげさま

この一言が 人生を豊かにする

○施しても 施しても 減らぬもの

にこやかな顔

なごやかな目

明るいことば

身軽な動作

○新緑もいいが、

紅葉もいい

芽吹きもいいが

落ち葉もいい

日の施餓鬼会が第一回目の大きな仕事となります。

旧役員さんには、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。

○昨秋も、美しいザル菊が、境内に所狭しと並び、多くの方々が鑑賞に訪れて下さいましたが、今年もザル菊の苗を会員・希望者にお分けする時期となりました。

現在、会員が150余名となり、お寺の名物行事化しつつあります。

総代はじめ御協力いただける皆様方と御相談しながら、もつとしつかりしたものにしたいと思つています。

